凡事徹底・活力・環境
五小だより
http://5s.hyama.andteacher.jp
令和 8年 7月 1日
No.4
東大和市立第五小学校
ＴＥＬ(042)562-1981
ＦＡＸ(042)590-7022

言葉と人権

副校長 永田 健

まもなく本格的な夏の暑さがやってきそうです。平年だと関東の梅雨明けは７月19日頃ですが、昨年は６月28日に梅雨明け宣言があり、かなり早いタイミングでの梅雨明けとなりました。今年も全国的に気温が高いことが見込まれています。当分の間は厳しい暑さが続くことが予想されるので、学校での活動や下校時に安全に過ごせるよう、指導していきます。

さて、新型コロナウィルスの影響がまだまだ続いていた４年前の７月、侮辱罪の厳罰化を盛り込んだ法改正が行われました。きっかけは、SNSでの誹謗中傷の末に亡くなった女子プロレスラー・木村花さんの事件でした。言葉は、自分と相手との人間関係が如実に表れます。自分が相手をどう思っているのか、また、相手が自分のことをどう思っているのか、その言葉に含まれる情報と共に自ずと表現されていきます。子供達がこれから生きていく社会では、一人一人の人権意識が高まり、より言葉に敏感な社会となることが予想されています。子供達が社会に出た時に、相手を傷つけたり、傷つけられたり、言葉でつまずくことのないよう、本校でも言葉を大切にした指導をしていく必要があると感じています。

東京都教育委員会では人権尊重の理念として、「学校教育において指導の充実が求められる人権感覚等の側面に焦点を当てて児童生徒にもわかりやすい言葉で表現するならば〔自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること〕であるということができる。」としています。「自分も相手も大切にする感覚」、「自分も相手も大切にするコミュニケーション」が大切である、ということかと思います。

「自分も相手も大切」ということは、自分と相手との間に上下関係をつけず、同じ目線でコミュニケーションをし、一方的な価値観の押し付けは好ましくないということではないでしょうか。教師と児童、親と子、それぞれの関係には、上下関係を感じるところですが、教師、親は何をしなくても上に見られるのが当たり前ではなく、双方ともに同じ人権をもつ一人の人間として、フラットな立場で関係性を構築しようということです。これは、年長者を敬うことを否定することではなく、年少者が双方の関係性を鑑み、自らの判断として敬う関係性です。権威的な言葉(「親や先生の言うことは聞くもんだ。」)や、一方的な考えの押し付け(「もっと男らしくしろ。」)には反発が起き、双方が納得した上での考えの共有(「○○だと思うけど、どう思う？」)が尊重される社会です。

大人は、子供の人格を認め、時には対等な大人として話をすることが大切なのだと感じます。本校では、人権尊重の理念に基づいた指導を今後も行っていきます。それが、これから社会を生きていくうえで必要な、児童の適正な言語感覚を育成することにつながっていくことを願っています。ご家庭でも、言葉と人権について考えていただけると幸いです。